



THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION NEWS



YMCA

月刊 The YMCA 付録
編集・発行 / 日本 YMCA 同盟 東京都新宿区本塩町7番地
大阪青年 発行: 末岡祥弘 編集: 大阪 YMCA 広報室
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297
URL: http://www.osakaymca.or.jp/
(年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

大阪青年

2008 Nov. 11

No. 611

2008年度 年間聖句

「めいめい自分のことだけでなく、
他人のことにも注意を払いなさい。」
(フィリピの信徒への手紙 2章4節)

大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組む、平和で公正な世界をめざします。

「足る」を知る生き方

みなとYMCA館長 ごとうのりゆき
後藤則之

家族、地域の一員としてコミュニティー（地域・地球）の将来に対する責任は何なのでしょう。私は一人ひとりが地球温暖化防止を遂行することと、移民を含め多様な人々の社会へと調和を進めることだと思います。

近年、厳しい気候の激変が、地球の至るところで様々な災害をもたらしています。この事は日々実感できる事柄でしょう。

7月9日に閉幕した洞爺湖サミット（主要国首脳会議）では温室効果ガスを2050年までに半減する目標に米国も合意し、国連での交渉で長期目標を採択するよう要請することになりました。これは、1997年12月11日に国立京都国際会館で開かれた第3回気候変動枠組条約締約国会議（地球温暖化防止京都会議、COP3）で議決した、いわゆる京都議定書が、2008年から2012年までの期間に、先進国全体の温室効果ガス6種の合計排出量を1990年に比べて少なくとも5%削減することを目標と定めたことに続く基準の設定になります。

この実現には、一人ひとりが地球温暖化防止の実行を日々意識して果たすこと以外に可能性はないでしょう。

一方、国立社会保障・人口問題研究所が出した2006年12月の推定表からは、2005年の大阪府の人口約8,817,000人（年少人口13.8%、生産人口67.5%、高齢人口18.7%、後期高齢人口7.4%）が、30年先の2035年には人口約7,378,000人（年少人口9.5%、生産人口57.2%、高齢人口33.3%、後期高齢人口19.5%）になるという数字を見れば、実にこの30年の間で大阪府の人口は1,439,000人減少（この数字は現堺市、東大阪市、池田市の総人口が無くなるに等しい）日本全体では約17,089,000人の減少が予測されています。

何もしなければ、大阪府の2035年の人口は1965年～1970年の人口に等しくなるのです。この数字を適正規模と見るか、活力の衰退と考えるかですが、さすがに年少人口9.5%、高齢人口33.3%はいかにもバランスが悪いことが見てとれます。



インターナショナルスクール ハロウィン行事より

ちなみに、現在EU加盟国の中で経済が活性化しているアイルランドの移民率は10%を超えています。温暖化の上昇による環境難民の大量発生から、その人道的受け入れも近未来では予測されています。思えば、YMCAは18世紀から19世紀に発生した産業革命と平信徒運動（レイ・ムーブメント）に、その起源があります。産業革命とは科学技術の発展に支えられ、今日に至るまで拡大し続けてきた物質文明の土台をなすものであり、平信徒運動は一人ひとりの人間の自由と平等と可能性を開放した運動と言えるでしょう。限りある地球、人間の拡大する営みによって環境破壊が進み、絶滅種が増える今日、更なる技術革新は生物の生存に適した環境の回復に寄与できるのでしょうか？

しかし、地球温暖化防止でも、移民の受け入れでも、これだけは確かなようです。地球上の誰しものが「足る」を知り、欲望をコントロールし、お互いに譲り合って共生する。このこと以外に再生への道筋は無く、YMCAを育んだ二大潮流をむしろ発展させる道もあるのではないのでしょうか。

地の塩

▼都立上野動物園には、「パンダが見たいです」「次はいつ来るのでしょうか」という問い合わせが増えていくという▼今こそ全国に知れわたっている北海道にある旭山動物園は、入場者数の減少で一時は閉園の危機に瀕していた。しかし、今年度は年間入場者数が上野動物園を抜き全国一になる可能性もある。旭山動物園はパンダのような珍しい動物がいるわけではなく、どの動物園にもいる「ペンギン」「ホッキョクグマ」「アザラシ」等を見に来る人で溢れかえっている▼なぜこれほどまでに注目を集めるようになったかという、従来の動物園が行っていた動物の姿形を見せる「形態展示」に代わり、動物の本来の行動や能力を見せる、それと見せようという「行動展示」「生態展示」を行っているからである▼旭山動物園のスタッフは日々の飼育体験や知識を共有し「こんな施設を造りたい」という「夢」を語りあっていた。そしてその中から「来園者が求めるものを察知し、どうやって生き物の自然の姿を伝えていくか。そのために、動物たちが本当にやりたいことは何かを考え、スタッフが知恵を絞ってきた」と旭山動物園の園長はおっしゃっている▼日常の業務に関わる熱意や、ちょっとした思い付きや、発想の転換が工夫につながり、実現したものが多くあるそうだ。そのスタッフの熱意と工夫が今日の姿になったのである▼YMCAに連なる私たちも、こうありたい、こうあって欲しいという強い意志を持ち「夢」の実現に向かっていきたいものである。(正)